



営農ウィークリーNEWS

「JA活緑」を小中学校等へ寄贈しました

JA京都中央管内の京都市、向日市、長岡京市、大山崎町地域にある小中学校等を対象に「JA活緑(堆肥)」を寄贈する取組を行いました。

「JA活緑」は、経済部コンポステーションが製造販売する有機資源リサイクル堆肥で、街路樹や公園などの剪定枝と食品工場（ビール工場・食品加工場）の活性汚泥処理残渣汚泥を発酵処理した堆肥です。

管内では、京野菜を中心に農産物栽培の土づくり資材として幅広く利用されています。

今回の取組は、地域に根ざしたJAとしての地域貢献活動の一環で環境対策や資源リサイクルなど「食」と「農」を学んでもらう目的として、初の試みで行われました。実際に校内の菜園等で使用してもらい植物がどのように生育するのか体験しながら学んでもらうことも取組の狙いの一つとなっています。

京都市へは、1,000袋(15トン)。向日市へは、300袋(4.5トン)。長岡京市へは、500袋(7.5トン)。大山崎町へは、100袋(1.5トン)を寄贈しました。



京都市役所にて



長岡京市立長岡第四小学校にて



向日市立西ノ岡中学校にて

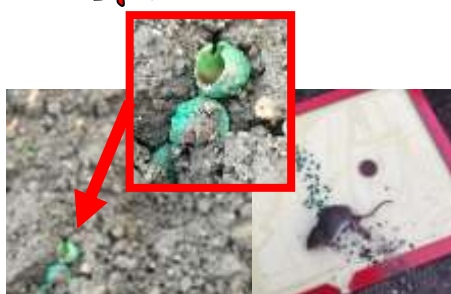


大山崎町役場にて

-TAC information-



ホレンソウ ネズミによる種子被害!!!



左の写真は、ホレンソウの種子です。中身だけ見事に食べられています。犯人は、なんと「ハツカネズミ」意外と知られていない被害です。

平成30年産から 主食用米の生産調整が変わります

29年産まで

30年産以降

生産調整の手法

行政が生産数量目標を決定し農業者へ配分



行政による配分に頼らない生産調整

生産数量目標達成のメリット

* 米の直接支払交付金 (7,500円/10a)を交付



米の直接支払交付金は廃止

*作付面積から自家消費分10%を控除して算定され、11～1月頃に振込まれるもの

今後は、コメは作りたいだけ作れるのですか？



平成30年以降は、「需要に応じた生産」が一層重要になります。

具体的には・・・「あらかじめ、自分の生産する米の販売可能量を把握し、経営判断や販売戦略に基づいて自主的に判断して作付面積を決定することが必要です。」

やみくもに米を作付けて、自分の米が売れ残ったりしないよう、各自がよく考えて決めないといけないのですね。



全国のコメの需要量の推移



コメの需要量は、年々減少しています

販売競争はますます激しくなると予想されます

対応方向



安定的な売り先の確保(事前契約、複数年契約など)
 転作作物作付による経営リスクの分散(水田活用の直接支払交付金を活用)
 収入減少補てん制度(ナラシ)の活用

※京都府農業再生協議会資料より抜粋

本年も残すところあとわずかとなりました。次回の「営農ウィークリーNEWS」発行は、年明けの1月9日（火曜日）となります。当JAの年末年始の休業期間は次のとおりです。**【年末年始休業期間】12月30日（土）～1月3日（水）**新年は、1月4日（木）午前9時より営業開始となります。時節柄、ご多忙のことと存じます。くれぐれもお身体にはご自愛くださいませ。来年も相変わらぬご愛顧を頂けますようよろしくお願い申し上げます。